

東京理科大学 総合研究機構 危機管理・安全科学技術研究部門 第9回シンポジウム

信頼される建築物・社会基盤の 構築とその危機管理

13:30-13:35

開会挨拶

東京理科大学 危機管理・安全科学技術研究部門長・教授 板生 清

13:35-13:40

趣旨説明

豊橋技術科学大学大学院 准教授 /
東京理科大学 危機管理・安全科学技術研究部門 客員准教授 増田 幸宏

I 講演

司会：危機管理・安全科学技術研究部門 副部門長・准教授 平塚 三好

13:40-14:10

『信頼される建築・都市の構築に向けて』

京都大学防災研究所 教授 林 春男

14:10-14:35

『社会基盤の健全性とヘルスマonitoring』

東京大学大学院 教授 藤野 陽三

14:35-15:00

『建物の劣化・保全・寿命』

財団法人建築保全センター 専務理事 寺本 英治

15:00-15:25

『建物の長寿命化と環境改修』

ヤマ工業株式会社マーケティング部長 小坂 幸彦

15:25-15:50

『IT強震計の活用事例』

株式会社エーラボ 代表取締役 荒木 正之

15:50-16:15

『建物・都市の機能継続 -Building and Life Continuity』

豊橋技術科学大学大学院 准教授 /
東京理科大学 危機管理・安全科学技術研究部門 客員准教授 増田 幸宏

※演題は変更になる可能性があります。

休憩

16:15-16:30

■日 時：平成 24 年 3 月 6 日（火）13:30-17:30

■場 所：東京理科大学 森戸記念館 地下1階 第1フォーラム
（JR 飯田橋駅より徒歩 10 分 / 新宿区神楽坂 4-2-2
<http://www.tus.ac.jp/facility/morito/>）

■定 員：申し込み先着 100 名

■参加費：無料

■主 催：東京理科大学 総合研究機構
危機管理・安全科学技術研究部門
（ホームページ：<http://www.rs.kagu.tus.ac.jp/gstcem/>）

■開催趣旨

東日本大震災の厳しい経験を踏まえ、これからの真に安全で安心できる建築・都市の構築に向けて、その危機管理の課題と方策を議論する。
災害時においても建物の機能が維持されるためには、第一に平常時より建築物の構造躯体の強度や劣化を適切に把握し、健全な状態に保ち続けることが重要となる。加えて、被災後にライフライン等の重要リソースの制約を受ける中で、被害状況と建物使用者のニーズを正確に把握しながら適切な対応を取る危機管理のプロセスが重要となる。本シンポジウムは防災、保全、建築、センシングなどの、最新の知見を駆使した危機管理の考え方を共有することを目的とする。

II パネルディスカッション

16:30-17:25

<コーディネーター>

財団法人建築保全センター 理事長 / 早稲田大学 名誉教授 尾島 俊雄

<パネラー>

林 春男、藤野 陽三、寺本 英治、小坂 幸彦、荒木 正之、増田 幸宏

17:25-17:30

閉会挨拶

東京理科大学 危機管理・安全科学技術研究部門長・教授 板生 清

17:30-18:30 名刺交換会

■お申し込み方法（事前申し込み）
電子メールにて氏名、所属、
連絡先を添えてお申し込みください
（anzen@rs.kagu.tus.ac.jp）

■お問い合わせ
03-5228-7751、03-5252-7380

